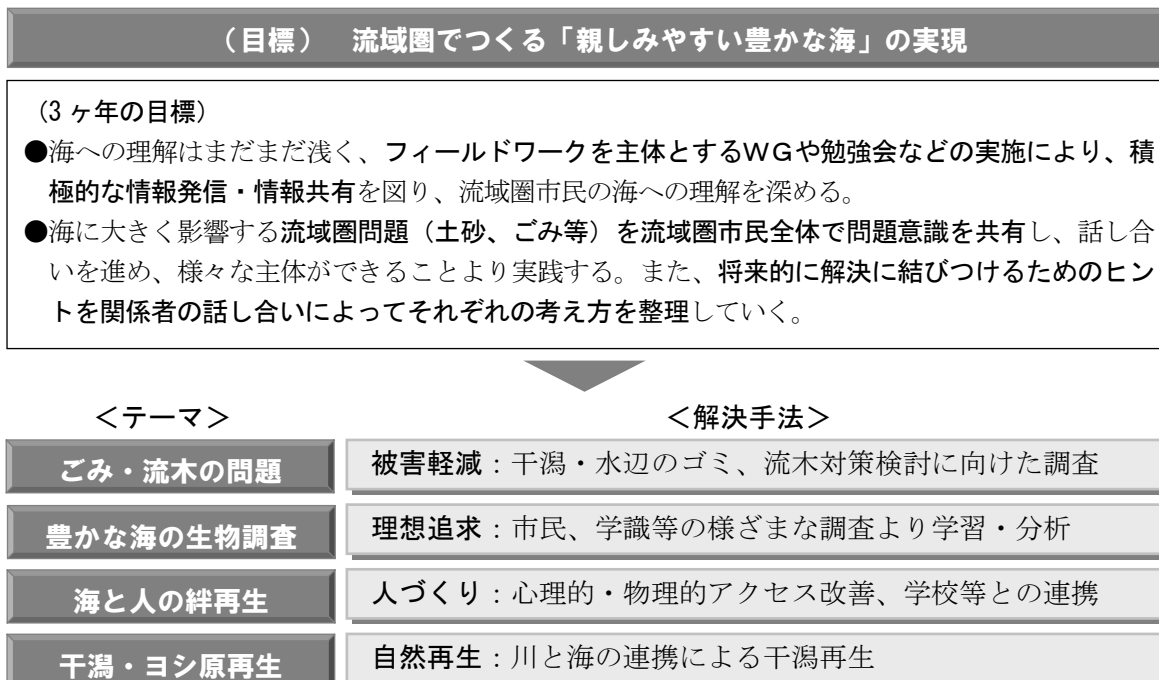


平成 26 年度の海部会の活動進捗報告（案）

1. 海部会の目標とテーマ

海部会の 3 ヶ年（平成 25 年度～27 年度）の活動目標とテーマを以下に示す。



2. 今年度の活動実績

3 ヶ年の 2 ヶ年目にあたる今年度の活動実績は、以下に示すとおりである。

全 8 回の WG を実施し、そのうち 4 回はごみ・流木調査や鳥類観察等の現地活動を行った。

日時	場所	参加人数	活動内容	
5 月 19 日（月） 13:00-15:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 4 会議室	18 名	第 17 回 WG	・ H26 年度活動計画
6 月 15 日（日） 9:45-14:45	・愛知県田原市西の浜	30 名	第 18 回 WG	・ごみ・流木調査 ・活動報告
7 月 22 日（火） 13:30-15:30	・西尾市役所会 2F 22B 会議室	21 名	第 19 回 WG	・三河湾干潟・浅場造成講義
8 月 9 日（土） 8 月 12 日（火） 9:00-16:00	・東幡豆海岸 トンボロ干潟、前島	5 名	第 20 回 WG	・干潟観察会 ・アンケート調査
9 月 5 日（金） 10:00-14:00	・西尾市役所一色支所 1F 第 4 会議室 ・衣崎漁港、矢作古川 河口部周辺	13 名	第 21 回 WG	・鳥類観察 ・ふりかえり
10 月 11 日（土） 10:15-14:30	・愛知県西尾市一色 佐久島	13 名	第 22 回 WG	・ごみ・流木調査 ・ふりかえり
11 月 19 日（水） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 4 会議室	20 名	第 23 回 WG	・三河湾干潟造成の検討
12 月 17 日（水） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 2 会議室	16 名	第 24 回 WG	・海底ゴミや生物調査について ・今年度のとりまとめ ・今後のスケジュール

3. 各テーマの活動進捗と今後の活動

今年度の活動進捗と今後の活動について、海部会のテーマに沿って以下にまとめる。

<テーマ>	<今年度の活動>	<活動の進捗>
<p>ごみ・流木の問題</p> <p>被害軽減： 干潟・水辺のゴミ、流木 対策検討に向けた調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 18 回 WG (西の浜エキスカベーションと同時開催) ・ 第 22 回 WG (佐久島ビンゴと同時開催) 	<p>〔活動進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ・流木調査の実施 (2 回分) ・ 山・川部会メンバーの参画 ・ 子どもと親の反応を直接確認
<p>豊かな海の生物調査</p> <p>理想追求： 市民、学識等の様ざまな 調査より学習・分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 19 回 WG (田村氏・鈴木氏の講義) ・ 第 21 回 WG (矢作古川河口で鳥類観察) ・ 第 24 回 WG (海底ゴミ・生き物調査結果の確認) 	<p>〔活動進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三河湾の干潟・浅場造成に関する 行政計画や事業の内容を把握 ・ 鳥類観察を通じて 干潟後背地の土地利用の問題を共有 ・ 海底の生き物等から三河湾の環境を確認
<p>海と人の絆再生</p> <p>人づくり： 心理的・物理的アクセス 改善、学校等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 20 回 WG (干潟観察会に参加・アンケート) ・ 第 22 回 WG (佐久島ビンゴに参加・アンケート) 	<p>〔活動進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海部会関係機関主催のイベントに参加 (2 回) ・ アンケート調査を通じて 子どもや保護者の海への意識を把握
<p>干潟・ヨシ原再生</p> <p>自然再生： 川と海の連携による 干潟再生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 19 回 WG (田村氏・鈴木氏の講義) ・ 第 23, 24 回 WG (三河湾干潟造成の検討) 	<p>〔活動進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矢作ダムの砂を活用した干潟造成の 試験施工に向け関係機関等と方向性共有

(1) テーマ1：ごみ・流木の問題

■今年度活動により分かったこと

《ごみの実態》 西の浜と佐久島で漂着ゴミを調査

- ・田原市の西の浜では、流木ごみは、山発生のもの1%、川発生のもの10%、海発生のもの25%であった。また、人由来のごみは、**プラボトルや袋類が多く**、100㎡で20Lごみ袋3袋分回収した。
- ・佐久島の白浜海岸では、流木ごみは、山発生のもの3%、川発生のもの10%、海発生のもの20%であり、60cm程度に**短く切られた木材**が確認されるとともに、根付きの**アマモなどの海藻**が多く確認された。また、人由来のごみは、食品包装・容器等が多く、100㎡で20Lごみ袋3袋分回収した。



《ごみ調査の方法》 他団体や山・川部会メンバーと連携

- ・「西の浜エスカーション」と「答志島奈佐の浜海岸清掃」（主催：22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会）、「佐久島わくわくビンゴ&アート体験!!」（主催：愛知県）の**他団体のプロジェクトと同時開催**で実施した。
- ・西の浜では、**山、川、海の部会メンバーと合同で調査**を実施した。
- ・奈佐の浜の海岸清掃においても山、川、海の部会メンバー合同で参加することができた。



■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉

- ・2ヶ年目以降は、管理者の処理が行き届かない流木ごみの再漂流防止のため、市民活動での処理方法や再利用ニーズなどを調査（個々に情報を持ち寄り）
- ・県が進めるごみMAPへの調査結果の活用検討など次年度以降にも引き続き、様々な関係者との連携を検討していく

〈活動進捗状況〉

- ・西の浜と佐久島で**他団体や山・川部会メンバーと連携してごみ・流木調査**を実施し、漂着ゴミの実態と問題意識を共有することができた。
- ・イベントや調査に参加した**子どもや保護者の反応や意識を直に確認**することができた。

■今後の活動（案）

- 市民活動での流木ごみの処理方法や再利用ニーズなどの調査を進めていく。
- 引き続き、他部会メンバーや他プロジェクトとの連携を進めていく。
- 矢作川での出水後のごみ・流木調査を進めていく。
- 発生源を特定するための調査方法を検討していく。
- 調査結果をいかにPRしていくか考えていく。

(2) テーマ 2 : 豊かな海の生物調査

■今年度活動により分かったこと

《鳥類調査》 干潟と後背地を一体的に捉えることが重要

- ・矢作古川河口や衣崎漁港の周辺でシギやチドリなどが**地球規模での渡りの中継**として干潟で休息・捕食している状況を確認した。
- ・衣崎漁港付近で繁殖した絶滅危惧種のセイタカシギも確認できた。
- ・干潟後背地にあった**田んぼや湿地が埋め立てられ**、満潮時に干潟が姿を消すと**鳥が退避する場所がなくなった**ため、鳥が干潟に来なくなった。



《三河湾環境再生プロジェクト行動計画等の講義》

産・学・官で構成する委員会で行動計画を策定

- ・国土交通省三河港湾事務所は平成 10 年から 16 年にかけて航路浚渫土を利用して**約 600ha の干潟・浅場を造成**してきた。稚貝放流も行い**アサリの漁獲量が増え、透明度も回復**した(3.5m→4m)。
- ・また、下水道整備等による**流入負荷量の削減**により、リンや窒素が減少して**水質が改善**される一方、**貧酸素化への効果は不明確**。



《海底ごみ・生き物調査》三河湾の海底の貧酸素水塊が生き物に影響

- ・三河湾では、**7 月～9 月に貧酸素水塊が増加し、底生性の魚貝類が減少**する。10 月に貧酸素水塊が消失するが**湾奥に生き物は戻らない**。
- ・今後は、**干潟・浅場造成による貧酸素水塊の抑制**や**デッドゾーン**(局地的に環境が悪化する港や泊地等)**対策による湾奥の生息環境改善**が題。
- ・海底のごみは非有用生物などが大半で人工ごみは少ない。



■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉
・ハンドブック等を活用した干潟現場見学会の実施
・勉強会の実施による三河湾再生プロジェクト等の総合的な海の情報共有の推進
・ごみの生物影響に関する情報収集と共有
・水産試験場や漁業者等との連携による調査結果などを活用した、流域圏の干潟生物等のアーカイブ作成 (環境学習にも使えるパネル等の作成)

〈活動進捗状況〉
・干潟の生き物として 鳥の観察・調査 を実施し、海の豊かさを考えることができた。特に、干潟後背地の土地利用や開発を一体の問題として考えることの重要性を確認・共有した。
・ 三河湾環境再生プロジェクト行動計画 等の策定経緯や内容、愛知県が実施した 海底ごみ・生き物調査の結果 について、 情報共有 することができた。

■今後の活動 (案)

- 海部会メンバーや関係機関が所有する生き物に関する情報を引き続き共有していく。
- 干潟の必要性や生物生息状況のPRなど行っていく。
- テーマ 4 と一体となり、新たに造成する干潟のモニタリング調査を検討していく。

(3) テーマ3：海と人の絆再生

■今年度活動により分かったこと

《干潟観察会》 親しみ方がわからないだけで海や生き物に関心

- ・東幡豆漁協主催の干潟観察会に参加し、**子どもや保護者の反応を確認**することができた（保護者も子どもと一緒に楽しみ感動していた）。
- ・干潟観察会の直後や別途佐久島ピッコ&アート体験などの様々な場面で**アンケート調査**を実施し、子どもや親の**海に対する意識やニーズを把握**することができた。



〈アンケート結果の要点〉

- ・海に行く頻度は1年に1回程度が最多。
- ・海に行く目的は、海水浴が最多で、次いで潮干狩り、散歩、砂あそびが多い。生き物を見に行く割合は比較的少ない。
- ・海に行かない主な理由は、距離が離れている、危ない・怖い、汚れる、暇や時間がない、親が行かないなどである。
- ・三河湾は親しみやすく近寄りやすい印象で、興味を持たれている。水がきれいかきたないかの印象は、意見が分かれる結果となった。

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉
・海から遠のいてしまった子どもの遊び場としての干潟づくりを漁協等の関係者と検討（部分的干潟開放、水場・緑陰等の整備検討）
・生き物調査や清掃活動などの環境学習への参加者の増加を目指した学校関係者等との意見交換
・海での様々な活動者の発掘と活動支援の推進
・海への理解を深めるための勉強会や現地見学会の実施

〈活動進捗状況〉

- ・様々な場面での**アンケート調査**等を通じて、**子どもや保護者の海に対する意識やニーズを把握**することができた。
- ・後述するテーマ4とのからみで干潟づくりに関する検討が進捗。

■今後の活動（案）

- テーマ4と一体となり、干潟づくりと環境学習・啓発活動の展開を検討していく。

(4) テーマ 4：干潟・ヨシ原再生

■今年度活動により分かったこと

- 《三河湾の干潟造成》 矢作ダムの砂を使った干潟造成の検討が前進
- ・国土交通省矢作ダム管理所に協力いただき、矢作ダムの堆砂をいただけることになった。
 - ・干潟造成地は、東幡豆漁協に協力いただき、東幡豆海岸のトンボロ干潟付近の一角に場所を提供いただけることになった。
 - ・愛知県農林水産部より、矢作ダムの砂を活用した西浦人工干潟の土壌改良計画について情報提供をしていただいた。
 - ・矢作ダムの砂を使った干潟造成のプロジェクトは、純粹に学問的な価値だけでなく、広く市民にインパクトを与える役割が期待されている。
 - ・また、海部会の活動や流域連携の象徴として、造成後の保全・活用の推進が求められている。



■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉
・河口部の干潟・ヨシ原再生箇所における 生き物のモニタリング調査
・関係者（漁業者、市民、学識、行政等）を交えた、今後の左岸河口部等の 干潟再生事業箇所における望ましい再生の姿の検討
・ 干潟現地見学会の実施 （河口干潟や人工干潟の対比、西浦などの干潟再生事例箇所などの調査の実施）
・ ダム砂や川砂の実態調査 や山地域との課題認識等の情報交換の実施

▼

〈活動進捗状況〉
・矢作ダムの砂を活用して干潟を 実験的に造成 する活動について、ダム管理者や海岸管理者、地元自治体、漁業者などの 関係機関と実現化に向けて方向性を共有 することができた。

■今後の活動（案）

- 仮置き場から所定の造成場所に砂を搬入する方法や役割分担をつめていく。
- 矢作ダムの砂を使って造成した干潟のPRや保全・活用を検討していく。
- 山・川部会との交流や流域連携の拠点としての有効活用を検討していく。

4. 海部会全体としての活動進捗と今後の活動

■運営方針に見る活動進捗状況

1) 個別作業 WG による運営

〈3ヶ年の運営方針〉

- ・ 4つの課題テーマについて、**それぞれ作業WGを立ち上げ、内容の検討**を行う。
- ・ 目標としてきた海部会のメンバーも充実してきたが、まだ、相互の活動情報が十分に理解していない状況もあるため、**海地域内での活動・情報交流の推進を当面の取り組みとする。**
- ・ また、今後、個別WGのコアメンバーを定め、事務局や関係団体等との調整役を務めていく。

〈活動進捗状況〉

- ・ テーマ毎の作業WGの立ち上げやコアメンバーの設定はしなかったが、**月1回ペースでWGを開催**でき、海地域内での活動・情報交流の推進につながった。

2) 現場での体感を重視した取り組みを実行

〈3ヶ年の運営方針〉

- ・ 海への理解を深めるため、**課題に関係する当事者の参加**を積極的に進める
- ・ 課題に係わる好事例については、矢作川流域圏外の情報も現地へ赴きながら積極的に収集し、流域圏での適用を検討する

〈活動進捗状況〉

- ・ ごみ・流木調査、三河湾の干潟・浅場造成等に関する講義、干潟観察会とアンケート調査、鳥類観察、海底ごみ・生き物調査の検討、矢作ダムの砂を活用した干潟試験造成の検討等、**フィールドワークを主体とした活動に加えて勉強会や講義**を実施したことで当事者の参加を進めることができた。
- ・ 課題に係る好事例の流域圏外の情報収集は、今年度未実施であった。

■今後の活動（案）

- 今年度は、現地でのフィールドワークを含む様々な活動や矢作ダムの砂を活用した干潟造成に向けた具体的な話し合いができたが、少しずつメンバー主体の動きもみられるもののWGの運営は依然事務局中心であり、海部会メンバー主導の運営に徐々に移行していく。

5. 他部会との連携における活動進捗と今後の活動

■運営方針に見る活動進捗状況

〈3ヶ年の運営方針〉

- ・海部会では、**ごみ、流木の流出を減らすために**有効な山での対策、川や里での対策、海での対策をそれぞれの地域で見つけ実践につなげていくため、**まず出水後の状況を把握する調査を提案**
- ・すぐに解決が難しい**干潟再生に係わる土砂等の問題**についても、将来的な解決のヒントを出せるよう**流域圏市民で一体となり考えていける場づくり（勉強会や現地見学会等）を提案**



〈活動進捗状況〉

- ・矢作川河口における出水時ごみ・流木調査は実施できなかったが、**西の浜や佐久島で山・川部会メンバーや他のプロジェクトと連携してごみ・流木調査を実施することができた。**
- ・矢作ダムの砂を活用した**試験的な干潟造成の検討**が具体的に進み、**流域圏市民で一体となり考えていく場づくりのきっかけを用意することができつつある。**

■流域連携に関わる活動進捗状況

〈活動進捗状況〉

- ・市民企画会議の中で、ごみ・流木、土砂、木づかいを当面の流域連携テーマとし、市民が中心となって検討していくことを確認できた。
- ・各テーマの主務担当者や検討方針、進め方について議論し、方向性を確認できた。

■連携における今後の活動（案）

- 引き続き山・川・海部会の連携を強化して、ごみ・流木調査と発生源対策等を検討していく。
- 矢作ダムの砂を活用した試験的な干潟造成を軸に、山・川・海部会の連携や市民との連携を展開していくことを検討していく。
- 流域連携テーマについては、具体的な検討内容と進め方について、検討していく。